



SPRING GAME 7th 2025年6月29日(日)K.O14:00 天候:晴 場所:アミノバイタルフィールド

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
専修大学 GREEN MACHINE	0	0	7	15	22
明治大学 GRIFFINS	7	12	6	6	31

1Q

専修大学のキックオフで試合がスタート。明治は立ち上がりからテンポよく前進するも、敵陣45ヤードで痛恨のインターチェンジ。流れが傾くかに思われましたが、直後の明治ディフェンスがしっかりと対応し、3プレーで専修オフェンスをシャットアウト。主導権を渡しません。続くシリーズでは、#37番木村（2年生）のロングランに加え、#12番堀切（3年生）から#18番杉崎（4年生）、#19番五十嵐（4年生）へのロングパスが次々と決まり、敵陣深くまで攻め込みます。残り1ヤードの場面では、#37番木村が押し込んでタッチダウン。明治が先制点を奪います。ディフェンスも立ち上がりから集中力を切らさず、専修の攻撃を封じ込める展開。第1クオーターは明治が試合の流れをしっかりと握る形で終えました。

2Q

2Qも最初のプレーから試合が動きます。自陣からのスクリーンプレーで#19番五十嵐（4年生）がそのまま駆け抜けタッチダウン。クオーター開始早々、専修大学を突き放します。さらに、敵陣およそ20ヤードからという有利なフィールドポジションでのオフェンスでも、反則に助けられながら着実に前進。最後は#37番木村（2年生）が押し込んでタッチダウン。専修大学に対して、明治が圧倒的な差を見せつけます。しかし、ここまで堅実だった明治ディフェンスが徐々に後手に回り始め、じわじわと攻め込まれる展開に。その中で#91番渡辺（1年生）が貴重なQBサックを決め、失点は許しません。さらにオフェンスがやや停滞する中、再び自陣近くまで攻め込まれるピンチを迎えますが、ここで#95番池田（3年生）のQBサックが飛び出し、流れを断ち切ったところで前半終了となります。

グリフィンズ7戦目は、専修大学GREEN MACHINE。





3Q

3Q、明治大学の攻撃はQBサックを許すなど不穏な立ち上がりとなります。しかし敵陣15ヤードという好位置からの攻撃で痛恨のインターセプト。攻守交代となり、明治ディフェンスに託されます。流れを断ち切りたいところでしたが、ここは踏ん張りきれずタッチダウンを許し、追い上げを許す展開に。

それでも次のシリーズ、#37木村がTBスクリーンから一気に35ヤードをゲインし、再び主導権を引き寄せます。

最後は#5宇野（3年生）がゴール前で押し込み、タッチダウン。明治が底力を見せて3Qを終えます。



4Q

4Q、明治は再びTBスクリーンで仕掛けますが、ここでファンブル。痛恨のターンオーバーとなってしまいます。

試合終盤の疲れも影響したのか、徐々にミスが目立ち始め、流れが専修大学に傾いていきます。

続くディフェンスでは、ロングゲインを許してしまい、およそ50ヤードを一気に運ばれタッチダウン。

悪い流れを断ち切れず、苦しい時間が続きます。

オフェンスも流れに乗れず、スクリーンがカットされサックを受けるなど思うように展開できません。

しかし、ここで#91渡辺（1年生）のピックシックスが飛び出し、スタジアムの空気が一変。明治が再び勢いを取り戻します。

さらに、相手のファンブルを逃さずリカバー。ターンオーバーで流れを完全に引き寄せ、チーム全体が活気づきます。

その後はオフェンスがしっかりと時間を使い、危なげなく試合を締めくくり、明治が勝利を収めました。



◆専修大戦を振り返って

専修戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

◆インタビュー #21 高橋周平 (RB)



■専修大学と対戦した印象。

2部に所属しているながらもBIG8などに引けの取らない勢いのあるチームという印象です。

■専修戦の反省

フレッシュな選手が多く出場した試合であったが、技術的な部分以前にどの選手でも意識的に防げるミスが多発しました。チーム全体を通してこのような部分を浸透させられていないことを痛感しました。

■次戦への意気込み。

一試合一試合堅実に勝ちを積み重ねます。

◆インタビュー #56 須田匠 (OL)



■専修大学と対戦した印象。

専修大学はチーム力が強く基本が徹底されている印象でした。

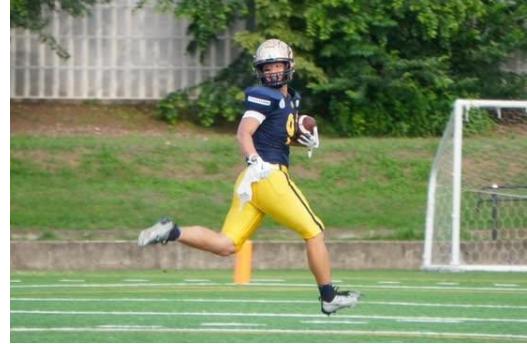
■専修戦の反省

専修戦での反省は4年として全てのプレーを圧倒する事ができなかった事です。

■次戦への意気込み。

秋シーズンでは筋力、体力、フットボールIQを高めていき、春シーズンとは別人となりグランドを駆け回ります。

◆インタビュー #91 渡辺大馳 (DE)



■専修大学と対戦した印象。

ベイシックなプレーをしっかりとやってくるチームだった。

■専修戦の反省

試合中のアジャストをもう少し工夫して出来たかなと思う。

■次戦への意気込み。

チーム一丸となって絶対勝ちます。



■次戦

2025年8月31日(日) 15:00 K.O. アミノバイタルフィールドで慶應大学との対戦です。

春の経験を糧に、今まで積み上げてきたものすべてをぶつけることができるか。
目の前のプレーに全員が全力を注ぎ、最後まで粘り強く戦い抜くという
“明治らしさ”を体現し、勝利を掴みに行きます。

慶應戦への勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！
GRIFFINSを皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go ! GRIFFINS.